

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[関連製品](#)

[背景説明](#)

[CTS マネージャ](#)

[TMS](#)

概要

プライマリ Cisco TelePresence システム (CTS) コーデックを取り替えた後消える場合この資料にエンドポイントで会議ソフトキーを復元する方法を記述されています。この文書に記載されている情報はタッチ パネルおよび midlet インターフェイスと使用することができます。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Unified Communications Manager (CUCM)
- CTS マネージャ
- Cisco TelePresence Management Suite (TMS)

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- CUCM
- CTS マネージャ
- TMS バージョン 13.1 および それ 以降

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

関連製品

この文書に記載されている情報もこれらのハードウェア および ソフトウェア バージョンと使用することができます:

- TX9000
- TX9200
- TX1310-65
- TX1300-47
- CTS3XXX
- CTS500-32
- CTS500-37
- CTS1100

背景説明

ユーザで Interface (UI) 現われる会議ソフトキーのためにコーデックは管理 システムによって制御する必要があります: CTS マネージャか TMS。

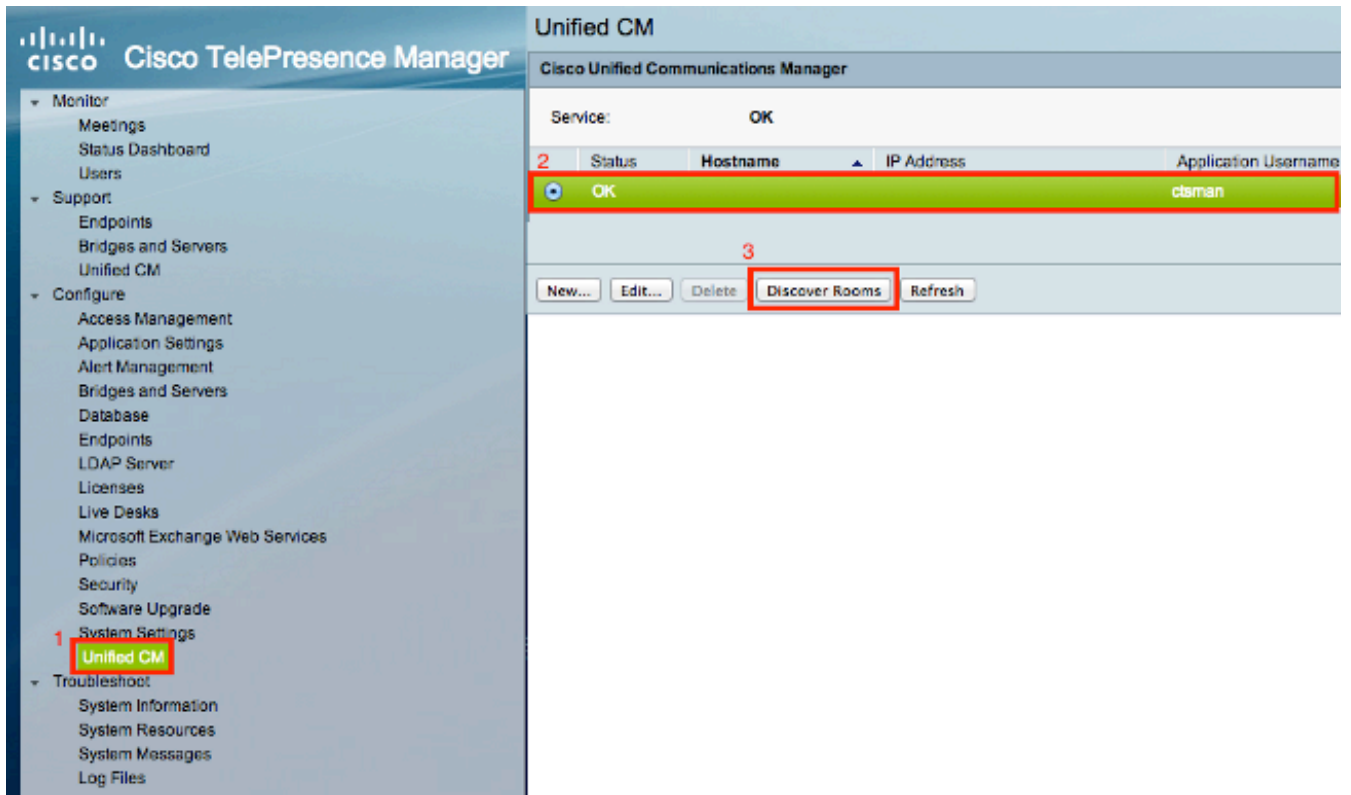
CTS マネージャ

コーデックが CTS マネージャによって制御される場合、それを確認して下さい:

- コーデックは Cisco Unified Communications Manager (UCM) の CTS マネージャによって使用するアプリケーションのユーザー プロファイルの制御装置として追加されます:

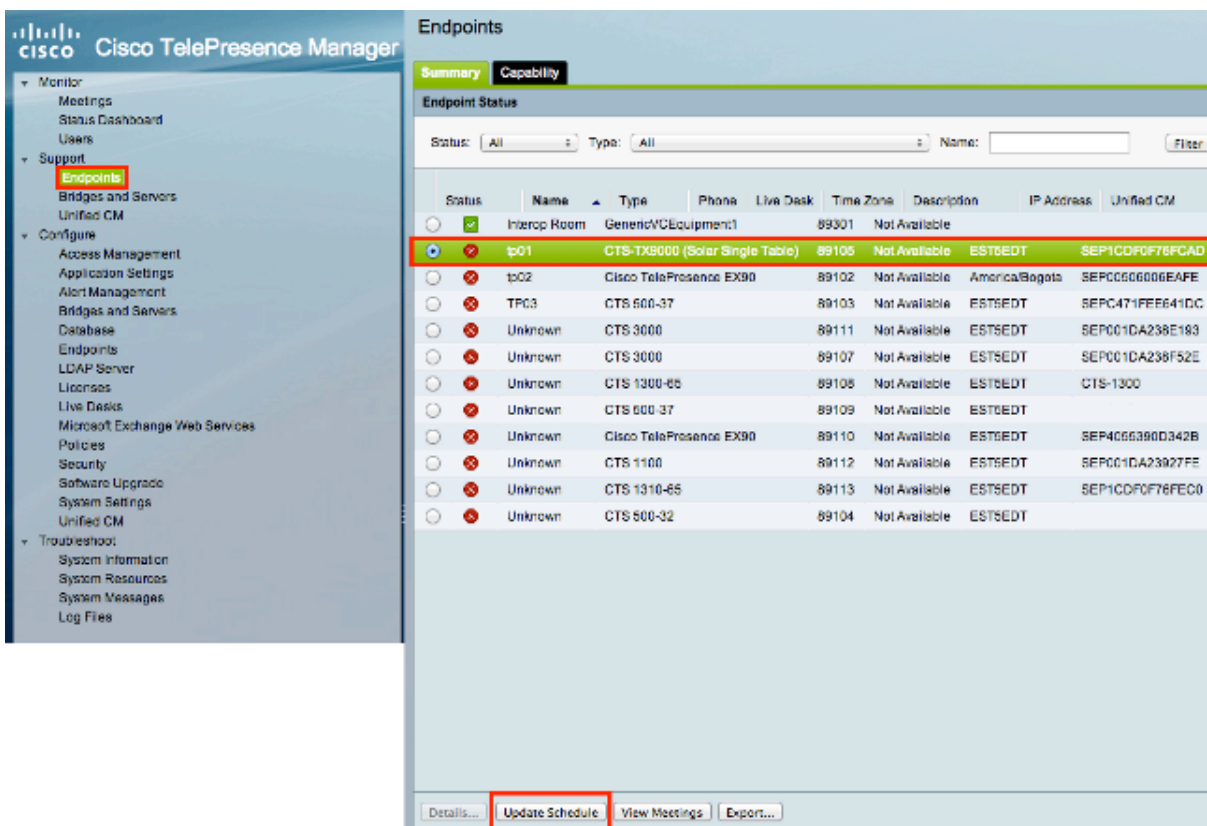
The screenshot displays the Cisco Unified Communications Manager (UCM) interface. At the top, there are two tabs: "User Management" (selected) and "Bulk Administration". Under "User Management", a dropdown menu is open, showing "Application User" (highlighted with a red box), "End User", "User/Phone Add" (with a right-pointing arrow), "SIP Realm", and "User Settings" (with a right-pointing arrow). Below this, the "Device Information" section is visible. It has two sub-sections: "Available Devices" and "Controlled Devices". In the "Available Devices" section, the device ID "SEP0050600D0214" is highlighted with a red box. A red arrow points from this box down to the "Controlled Devices" section. The "Controlled Devices" section lists five device IDs: "SEP001DA238D251", "SEP001DA238E193", "SEP001DA238ED33", "SEP001DA238F52E", and "SEP001DA238F5BE".

- ディスカバリは CTS マネージャで実行された。CTS マネージャ データベースのコーデック情報をアップデートできます。



- CTS マネージャはポート上のエンドポイントへの接続が 8080 (非セキュア) または 8443 あります (セキュア)。

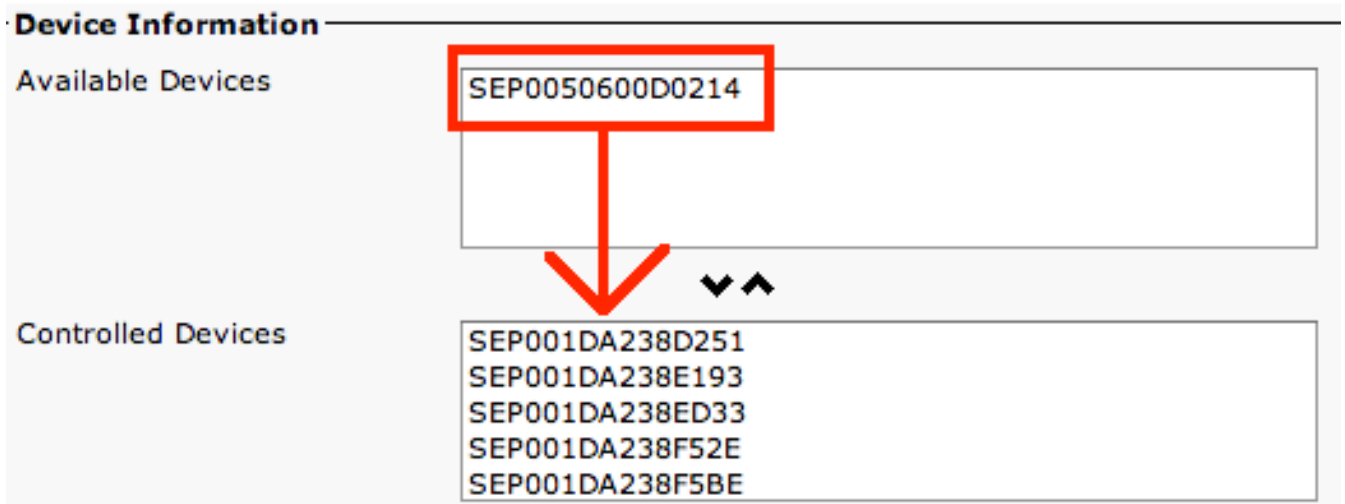
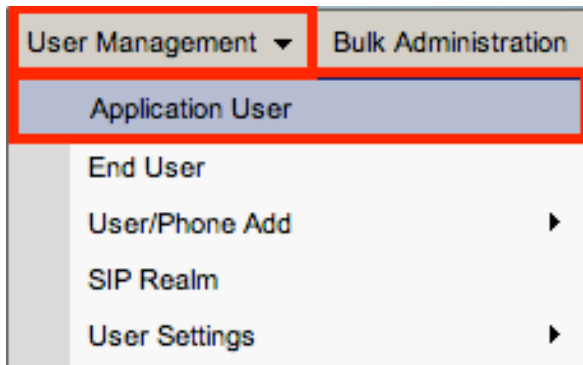
これらが確認されれば、> CTS マネージャのエンドポイントはサポートするためにナビゲートします。リストの影響を受けたエンドポイントを選択し、アップデート Schedule ボタンを押して下さい:



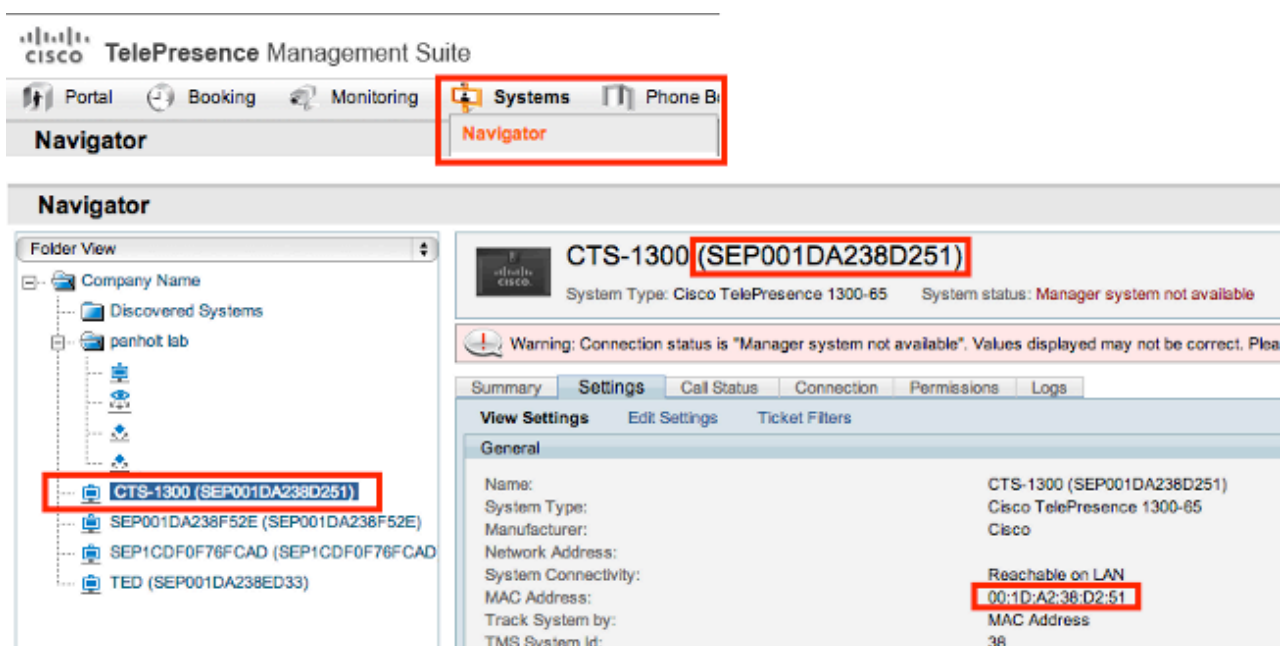
TMS

コーデックが TMS によって制御される場合、それを確認して下さい:

- コーデックは UCM の TMS によって使用する Application ユーザ プロファイルの制御装置として追加されます:




- TMS は TMS のシステム ナビゲーター ページでシステムフォルダの下で正しい MAC アドレスを示します:



- TMS に TCP ポート 80 (非セキュア) および 443 によってエンドポイントへの接続があります (セキュア)。

これらが確認できれば、このエンドポイントのための TMS の管理設定を実施するように試みることができます:



SEP001DA238EA4B

System Type: Cisco TelePresence 500-37 System status: Idle Network Address:

Summary **Settings** Call Status Connection Permissions Logs

View Settings **Edit Settings** Ticket Filters

General

Name:	SEP001DA238EA4B
System Type:	Cisco TelePresence 500-37
System Connectivity:	Reachable on LAN
Network Address:	
Manufacturer:	Cisco
MAC Address:	00:1D:A2:38:EA:4B
IP Zone:	USA
Time Zone:	(UTC-05:00) Eastern Time (US & C

Configuration

Software Version:	CTS 1.9.1(68)
-------------------	---------------

Call Settings

Maximum IP Bandwidth:	4628
Max Number of Video Calls:	1
Max Number of Audio Calls:	0
Autoanswer:	Unknown

Network Settings

Monitoring/SNMP Settings

Management Address 1:	
-----------------------	--

TMS Scheduling Settings

Allow Bookings:	<input checked="" type="checkbox"/>
Allow Incoming SIP URI Dialing:	<input checked="" type="checkbox"/>

Save Force Refresh **Enforce Management Settings**